

○ 開催日時 令和 6 年 9 月 17 日(金)19 時 00 分から 20 時 23 分まで

○ 開催場所 浜田市消防本部 2 階大会議室 浜田市原井町 908 番地 11

○ 内容

1 消防長あいさつ

皆様におかれましては、夜分お疲れのところと思います。消防本部にお集まりいただき誠にありがとうございます。この機構検討委員会は消防本部をはじめとして消防署、出張所を建て替える際に、浜田市にとってどのような配置がよいのか委員の皆様から広く意見をいただきたいと思い開催するものです。今年度第 1 回目、トータルでは第 5 回目になります。本日は、西部消防署と弥栄出張所の設置場所について検討していただきたいと思っております。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。なお、私は 4 月から消防長を拝命しました赤岸と申します。よろしくお願いいたします。

2 西部消防署及び弥栄出張所設置場所の検討について

(委員長)

それでは、西部消防署と弥栄出張所設置場所の検討についてですけれども、だいぶ間が空いていますので簡単にこれまでの流れを話しますと、前回までの会議でアンケート結果やアンケート結果に基づいて委員の皆様の意見を伺いまして、消防本部の位置は中央が良いという意見が多く見られました。その結果をもとに中央を第一候補と考えています。委員の皆様には各所属において、そのことについてはもうお話をさせていただいていることと思います。つきましては、今回からの会議では、西部消防署及び弥栄出張所の設置場所の検討について委員の皆様の意見を伺っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、西部消防署設置場所について、お手元の資料を確認しながら意見を伺っていききたいと思います。まず、今ある場所と仮にその西部消防署の場所を、運動公園付近或いは三隅支所付近にした場合の現場到着時間を示した資料となっております。今回から新たに委員に就任いただいた委員の皆様もおられますので、これまでの委員会では加重平均についての説明をさせていただきたいと思いますが、加重平均についてという資料がございます。資料 2 のところに黄色で塗りつぶしがあるところに単純平均という言葉が入ってあったり或いは現場到着時間、加重平均という言葉が書いてあったりしますが、1 からの説明はちょっと冗長なるかと思っておりますので改めていたしません。簡単に申しますと、単純平均というのは、単純にすべてのその現場に対して、到着時間が短くなるように、例えば中心地に消防署を配置したときに最も現場到着時間が短くなるようなそういう計算方法になります。それに対して加重平均というのは、人口の多いところに重きを置いて、そこにウェイトを掛けた

形で、平均を計算しますので、人口の多いところに消防署があることで、平均値が少なくなるようなそういう計算方法になります。単純に到着時間をそれぞれの現場への到着時間を平均したものと、より人口が多いところに重きを置いて計算したものという点で、2つの平均の違いがございます。簡単に、単純平均と加重平均の説明もさせていただきました。改めまして資料をご覧くださいまして、少し時間を取らせていただきますので、ご確認をいただきながら、ご意見をいただきたいと思います。ちょっと内容、所見ではなかなかすぐには、内容を理解していただくことも難しいかと思しますので、まず資料のご確認をよろしくお願いいたします。

それでは、時間を長めに取りましたけれども、委員の皆様からご意見がございましたらいただければと思います。

(委員)

今までの流れがわかってないので教えていただきたいのですが、今はこの西部消防署があるところを、三隅支所、運動公園とかそういう個別の候補地が3つ挙げられているようですが、建て替えを今考えているというところで、どこがいいかという話をするやり方で、弥栄出張所なのか支所に建て替えをするのか、このままでいくのか、建て替えとかをどう決めるという会議の趣旨でよろしいですか。この示した資料を読んでいきますと現場到着時間が西部消防署では全部積算して、加重平均が6.5、7.0、7.2という形になっている。なるべく小さいほうがいいよねという話なのかなと思いますが、この加重平均の取り方について、私としては本当に人口よりでいいのかなと少し疑問を呈したいと思います。病気になる方、怪我をする方で救急車を呼ばれるというのが1つのテーマかなと思います。すべての人口が同じように救急車を呼ぶわけではないっていう感じがかなと思います。例えば国道9号線沿いでは交通事故が当然多いでしょうし、また高齢者の方が若者に比べると救急隊を呼ぶ回数が多いのではないかと考えています。子どもの方かやはり我々成人よりも呼ぶ回数が多いのではないかとしますので、救急車は一体どこでどういう要件で何件呼ばれたかの方が加重平均を取る際の資料としてはふさわしいのではないかなと思います。人口も大事ですけど、どういった方が、どういった要件で、どこで呼ばれるかの資料の方がもっと重要なという感じはします。もうひとつ、よく使うところとしては診療所で救急車を呼んで医療センターに搬送してもらうことが多いですが、よく使うところのもうひとつはやはり病院かなと思います。病院や介護老人保健施設とかその施設もよく使われるかなと思いますので、要は、どこでっていうところの方が人口の加重平均は重要なのかなというところを発言させていただければと思います。

(委員長)

ありがとうございます。議論の整理もしていただいて大変ありがたく思います。確かにその出動件数で取ればという話はありますけれども、人口と出動件数をあらかじめ相関をとっています。そうするとほとんど99%ぐらいの出動件数と人口で相関がありますので、人口を取

っておりますけれども出動件数をほぼ代理できているというそういう指標として使っていることをご提案させていただきました。

（委員）

医療機関があつたりすると、やはりうちの診療所をよく使っている方かなと思いますけど、弥栄の中でも人口が多い理由だけではなく、その人口比率も、そもそも例えば三隅のところも相関することがわかっているということですよね。防災地図が入っていますが、これはどこに建てるが安全かを見るところだと思いますけど、弥栄に関してはどちらでも良いのかなと、弥栄支所と現状のところについては、そんな意見を持ちますが三隅に関しては、三隅支所のところも現状のところも水に浸かるような洪水の浸水想定区域に入っておりますので、山の上に作るというのも、運動公園のあたりや石正美術館のあたりに作るのかなと思いますけど、多少の加重平均との差異が看過できるものであれば、山の上に作るのも考えてあげるべきかなと思っております。

（委員長）

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

（事務局）

今言われましたとおり、今三隅を見ますと、今の西部消防署、それから支所につきましても、浸水想定区域というところで、この地図を見ると、なかなか適したところがちょっと難しいのかな、中央公園、学校とかその施設にまだ建てるとかそういった話はまだなくて、地図を見てここがとりあえず安全なのかな。先ほど言われた、高いところに、行くっていうのも1つの手じゃないかというところで話を出してみました。そこに移転するとか、そういった話は全くありません。

（委員）

建て替えとすると何年ごろ考えられておられますか。

（事務局）

具体的にまだいつってことはありませんが、ちょっと西部消防署の方は、地盤沈下があり、できれば少し前倒しじゃないですが早めと考えていますが、今何年とかというのはありません。

（委員）

昨年度までは、この本部の建て替えのイメージの話をずっとしてきたところですけども、今日については西部消防署それから弥栄出張所にちょっとポイントが移っているような気がしております。三隅地域協議会としての気持ちといいますか確認になりますが、実際に地盤沈下の話は以前から聞いたことがあります。結構、三隅地域の方も、そういった状況を知っているのではないかなと思っています。西部消防署があるのが向野田ですが、この向野田地区は、58 災害のときには大きな被害、三隅支所のところも大きな被害を被っています。この間、浜田市の防災訓練があって、その検証会が、つい最近ありました。向野田郷に住んでいる方からも意見がありまして、堤防決壊とかそういった大雨というのは、今いろんなところで災害が起こっている中、川幅を広げたりダムを建設したりしていますけど、100%そういった堤防決壊の災害が起きるかどうかは、絶対に起きないという保証はないので、要は川の近くの方は、この防災マップを持っていない人でも災害をすごく怖がっております。そういった地域の方の避難場所、一時避難場所は近場のまちづくりセンターとかになりますが、最終的な寝泊まりをするような、避難をするような場合は、運動公園に避難をしよう。車の中でもいいから、とにかく高いところへ避難しようというような考え方になっております。そういったことで、この 3 か所を見ると、ピンポイントになっていると思いますので、これがいろんなところに想定案が散らばっているわけではなく、なるべく安全なところに今言われた高台が良いのではないかな。最終的な避難場所でもありますのでそういった感じはしております。

(委員長)

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

先ほどのご意見ありがとうございました。今回正確な日程とか決まっていない状態ということ为先ほど説明させていただきました。非常に先がわからないのに、何をっていう意見も前回前々回の委員会でも意見がありました。その中で非常に厳しいところなのですが、正直、委員が言われた場所は希望の場所でもあります。ただ何を一番に考えるべきかっていう意見もいろいろ出していただきたいところもあります。実際に三隅は大水害を経験しまして、そういった気持ちが非常に高いというのわかりますので、そういったのも 1 つの意見として、また他に違った意見等ありましたら、それもいろいろ聞いて、まだ期限が限ったものではないから、いろんな意見を出していただいて、それをすべて反映させつつ、だんだん近づいていく。例えば、令和 20 年に建て替えるとしたらそれに、近づいていく段階で、また第 2 回目のこういった会をさせていただいて、大きな方向を決めていくという方向ですので、どんどん意見を出していただいて欲しいと思います。

(委員長)

今お話がありましたとおり、現場到着時間はもちろんこの重要ではありますが、それだけで判断するというものではありませんので、安全性とのバランスの中で、効率的な場所というものを示す数字としてここで到着時間を出していますのでそういったことを合わせてご意見をいただければと思います。

（委員）

西部消防署の位置ですが、資料 7 を見ますと、現在の消防署の位置だと、大水のときには、2 階の床下ぐらいまでは水没する理解でいいですか。私の記憶では 58 の水害が一番大きいわけですが、その後に御部ダムもできましたから、58 の水害程度にはならないかも知れませんが、その時代よりも今は集中豪雨、線状降水帯がかかった場合に、本当に御部ダムで持ち堪えられるものなのかどうなのかということも心配の種です。今の西部消防署の位置が移転するのはわかっているわけでしょうから、今地盤沈下の話もあり、建て替えるなら地図で浸水しない地域を考えていただきたい。それから救急の方で言いますと、現場到着時間も 1 つですけれども、今後、山陰道が開通してくると医療センター等に患者を連れていくことも想定されると思いますので、そこもある程度加味していただいて考えるべきではないかと思います。弥栄の方に話を移しますと以前、弥栄でこの話をしましたときに、人口の少ないところは、救急車の到着が遅れても我慢しなくてはいけないという話もありました。それも一理あると思います。資料 8 になりますが、令和 22 年の数値を見たときに、もちろん人口は減っていますけど、この表の中にいない集落があります。末端の集落になりますが、令和 22 年でいうと今から 16 年度になりますが、完全には消滅していない集落もあります。そうしたときに、さっき言ったような人口が少なければ到着する時間は、遅くなってもいいのかということも考えていただくようにと思っています。現在の杵束の位置は、私としたらベストかなと思っています。

（委員長）

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

（事務局）

今言われましたように、いろんな方面に考えていかなければいけないと思っています。それから、人口とかありましたけども、この中にはですね、今のところすべて網羅しているのではないかなと思っていますので、決してそういったところを見せていないわけでもありませんのですいませんがご理解ください。

（委員）

資料 8 ですが、弥栄の人口は間違っています。これは、現在、私よく学生たちに話すことがあります、人口も 1100 人を切っていて、1000 人台に入っています。来年度の 1177 人も間違いだし、島根の里づくりサイトがあって、人口推計が実は出ていまして、今調べたのですが、2038 年、令和 20 年の時点で 696 人と推定が出ています。841 人、2040 年には、いるわけがないと思っています。多分このコーホートの変化率により算出っていうのが若干甘いのではないかなと思っておりまして、一応やり直したほうがいいのかなと思います。

(事務局)

国税調査の数値をもとにしてコーホート変化率法というのがあり、それで減していき、人口を算出しました。

(委員)

私もいつもそんなふうになるんだよって未来図を、学生たちやその職員とともに、この町の何を変えて、どうやって支えていったらいいだろうかっていうのは、先ほどの島根の里づくりサイトがどうやってるのか、私もちょっとわからないのですが、違う推計も出ていますし、もともと 2025 年の時点ではすでに上向きになっているので、ちょっと若干緩いのではと思います。もう一度いろんなデータでやるのがいいのかなと思います。

(委員)

余談に聞こえるかもしれませんが、ご存じでしたら教えていただきたいと思います。まず三隅についてですけども、もともと三隅支所に消防車庫があったと思います。それから後に向野田に引っ越しをしたと思います。あの場所を選んだ理由はご存じでしょうか。

(事務局)

浜田那賀消防組合が、平成 2 年に発足しまして、その時に向野田になりました。

(委員)

今の西部消防署は、以前は三隅出張所として、消防長が言われましたように、平成 2 年に合併して、浜田那賀消防組合となりました。その前は、役場消防隊が三隅をみてて、その支所の前に役場消防隊の車庫がありましたが、浜田那賀になったときに、金城にも三隅にも作らないといけなくなり、その時に一番人口が集中し、いろんなところに行く条件がいいところを選んで、向野田になったそうです。

(委員)

同じように弥栄についても聞きたいですけども、もともとは今は杵束にありますけども、もともとは長安本郷にあったのが杵束に建て替えて移った。同じことですよ。このパツと見た感じで、人口の度合いで、この資料の地図で、どこの方が多くて少なくというのがちょっとわかりにくいですが、どっちかというと杵束が西より、それから支所の方は東よりということで、これ中間あたり大坪とかその周辺を想定すると、デメリットとかいうのはあるんですか。

(事務局)

特にはないです。それも1つの意見と思われれます。もしご希望がありましたら、そういった場所で、想定した現場到着時間の、図、もしくは表を、また次回までに作って準備します。

(委員)

三隅で今の西部消防署の場所が、やはり浸水想定地域で危ないというご意見なのですが、先ほど言われましたとおり御部ダム、それから山田ダムが今から10年もすればでき上がってきて、やはりどっちみち建て替えになるとなる段階になって、やはり運動公園だったら小学校・中学校・リハビリテーションカレッジがあります。なかなかやっぱり救急等サイレンを鳴らして出動するのも遠慮がちになるのではかと思えます。それと、住民としてもなかなかあそこまでお願いをしに行くにはちょっと遠いと思えます。イメージ的に、離れたところにできてしまうような気がするので、私としては、今の場所を中心としたところで建て替えたほうが良いのではないかなと、これは地盤改良もいるかもしれないが、今の場所が、ベストのような気がしてなりません。線状降水帯確かに、58年の災害ときも、そういう言葉はなかったですけども、あれは明らかに線状降水帯、集中豪雨っていう言葉もできた58年災害でしたけれども、集中して650ミリも大雨が降るのは本当になかなか考えにくい、あるのかもしれないが、そこは御部ダムと矢原ダムでカバーできるようになっているのではないかと思います。

(委員長)

その他、ご意見はございますでしょうか。

(委員)

いつも同じような意見ですが、なかなかいつ建て替えるかわからない中で、この話をするのは難しいと思いますが、浜田市の人口がどんどん減っていて、浜田市の財政もいつまで今の状態が続くかわからないので、なかなか単独建て替えは難しいと思うので、場所はこれから一番いいところにすると思いますが、何年か先になるのかわかりませんが、その他の公共施設の建て替えがあれば、一緒に複合化をするとか、この場所だけじゃなくて、ちょっと違う公共施設、市役所の支所の建て替えもあるかもしれないし、あと公民館があるかもしれないと思うので、それと一緒に複合化の検討をされれば、財政的にも良いのかなと思います。

(委員長)

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

財政のことを考えていただきありがとうございます。財政なしでの意見も全然重要ですが、そういう考えも正直、今後、考えていかなければならないというのはあります。支所の話になりますが、三隅、弥栄の順番で耐用年数が超えてきますが、そういうのを考えると、それとも、1つの考え方としてはないことはないと考えております。

(委員)

先ほどの人口の件で私が多分勘違いしていたので、謝りたいと思っています。たぶん鍋石と黒沢が入っているので、多分ちょっとそこら辺で上積みがあるのかなと思います。でもやっぱり2038年の推計は、やはりその分を引いても合わないの、やはり少し緩いのかなというところはあるかと思いますが、もうちょっといろいろ推計を見てみていただければと思います。地図を見ていると、黄色と赤の土砂災害特別警戒区域は、これでもかという感じですが、実際に例えば三隅の中央公園に作った際に、救急車が出られるのかな、そういった視点ももう1個1つ考えてもいいのかなと思ったのですが、どこ行っても駄目だという感じもしないことはなくてですね、ちょっとそれを言うってしまうのも、難しいのかなというか弥栄の方も同じくですね。例えば大坪どうかなと思うと、いつもあそこの道が閉ざされてしまうと、にっちもさっちもいかないのでそういう視点も考えなきゃいけないのですが、資料12を見てみると、弥栄の杵束の幹線道路が全部駄目かもしれませんね。実際この辺が、どの程度崩れるのかということも考えながらやってもいいのかなと思ったのですがどうなのでしょう。黄色とか赤色がどれぐらい実際に駄目なるかとかの割合を出してもいいのかなと思います。

(委員長)

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

確かに言われるように、浸水区域がクリアできれば、今度は土砂災害とか、そういった本当にクリア部分が少ないと思います。もし考える中ではいろんな方面を考えていかなくちゃいけないのかなと思います。本当にクリアな場所を探すのは難しいですが、そのことも考えながら検討していただけたらと思います。

(委員長)

西部消防署に限っての話でなく、どちらも含めて、ご意見ございますでしょうか。

(委員)

私は昭和 58 年に浜田市民じゃなかったから、よく大変なことを知らないのですけれども、58 年の水害のときは、大変な水害があったというふうに聞いております。当時は、三隅支所のところに消防署があったのですか

(事務局)

支所の消防隊がそのときにありました。

(委員)

その際に、こういうことで非常にうまくいかなかったとか、その辺の何か大洪水が起きてしまった際の反省とか、何という、実際なんか消防隊があったってことですけど、何か、その辺を踏まえると大水害が起きた際に、ここにある方がアドバンテージがあるのではないかというふうな、多分振り返りなどをされていると思うのですけど、その辺の何か、結果とかはもしご存じたら共有していただけると、やはり大雨の線状降水帯による水害が一番、この町のコアなので、その辺についてコメントいただければいいかなと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

私は、ちょうど三隅にいまして中学生でした。たいしたことは覚えてはいませんが、向野田と三隅の地域は道路すべて通行不能でした。瓦礫や流木やごみが 2m くらい積もっており、とてもじゃないが、救急車にしても消防車にしても動ける状態ではありませんでした。ですので、もう消防が機能するとかそういうレベルの話はすでになかった。ただ、今違うのはやっぱり、三隅に関して言えば、道路がどんどんできていっているこの変わり行くところで、何を考えていくかという非常に難しい状態だと思っています。それと先ほど言われました矢原ダムの計画も実際進行しつつあるようで、その辺を考えると、三隅はまだまだちょっと変わりよる途中だなという印象はあります。それに伴って当然、弥栄も三隅に出るほうが良くなることもある可能性もありますし、その辺も踏まえていく必要も考えの中であってもよろしいのかなと思っています。

(委員長)

例えばその資料に関しては、これ 1 つの資料の表の見方ですけども、資料 2 の西部消防署の現場到着所要時間に関してちょっと補足でお伝えしますと、単純に時間だけで見るとの話です。時間だけを見ると、現西部署が単純平均で見ても人口でウェイトをかけた加重平均であっても、どちらにしても、現西部署の方は到着時間が短いということで、これはもうどちらの平均をとっても傾向は変わりますというそういう結果になっているということと、あとは資料 8 で言いますと、弥栄出張所の現場到着時間に関しましても、弥栄支所の方が、単純平均であっても、そして若干でありますけど、加重平均であっても、現場到着時間は短

い。ですので、加重平均と単純平均を最初に分けてお話をさせていただきましたけれども、傾向としては単純で計算しても加重で計算をしても、現場到着時間が短くなる傾向は変わらない結果にはなっております。加重平均というのはやはり効率的な指標だと思います。効率的に到着時間がこの数字が少なければ少ないほど短くなる形で計算されますけれども、その一方でやはりその安全性とのバランスというものが重要だと思いますので、あくまで加重平均で出ているというのは、効率の良い場所がどこかという判断をするために、その時間が短い方が効率がいい場所だととらえていただければいいかと思います。ですからあとはそのハザードマップとの安全性のバランスだと思います。効率だけで判断できない部分は当然あるかと思いますので、その部分を今ご議論いただいと私は受けとめております。今回の委員会は、最初、冒頭でもお伝えしましたけれども、消防本部だけではなくて、西部消防署や弥栄出張所の設置場所の検討ということで、これまでの本部の検討と同じ、検討材料として加重平均値というものをお示しておりますので、同じように地域にお持ち帰りいただいて、それぞれのご地域でご意見を伺っていただければと考えております。この資料についてでもよろしいですし、その他、委員の皆さんから何かございましたら、ご意見いただければと思いますけれどもいかがでしょうか。

(委員)

今回初めて会議出席させていただきます。よろしくお願いします。実際、西部消防署と弥栄出張所がテーマということですけど、あまりその地形がわからないというか、そういうのがあって、今までも58災害があつてどうだった、後は災害が起きて、多分河川もいろいろ改修改善されたと思います。今もやっぱりその当時のように水が出るものなのか。そこは、ちょっとわからないですけど、先ほども委員長が言われたような、各地域、三隅なら三隅、弥栄なら弥栄で、その中でいろいろ市民との協議が一番大事じゃないかなと思います。こういった委員会も大事ですけど、やっぱり地域の方がどのように思っているのかを大事にしてあげないといけな。後は、いざ出動するときにはいやあそこだったら、あんまりよくないよという消防署の考え方もあると思います。そういうのもいろいろアンケートでも取って、ちょっとずつ絞ってゴールに向かう考え方もあるのではと思います。

(委員長)

今のご意見に対して事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

委員言われますように、ごもっともだと思います。当然、地域の方の意見は大切なので、今日持って帰っていただきまして、いろいろと話していただき、また第2回でお話しするとかですね。そういった形で市民の皆様の声を聞いていこうかなと思っています。当然そのご意見いただきまして、今後まだ消防としては、いつまでにはありませんが、そういったことも考えながら考えていくという形にしようかなと思っています。

(委員長)

今回から委員としてご参加いただいた方が少し遠慮されているんじゃないかなという気もしますので、もしどんな意見でも構いませんので、お聞きになりたいことなどありましたら、ご発言いただければと思いますが何かございませんでしょうか。

(委員)

議論のものをちょっと根本から変えるような形になるかもしれませんが、三隅に1個、弥栄に1個ともうこれ以上は増やさないことでよろしいでしょうか。というのも現場到着時間がやっぱり10分を超えているっていうところも幾つか表の方で単純平均のところをずっと見てるとありまして、例えば心肺停止になってからやっぱり7分ぐらいまでの間にCPRをすることは重要なので確かほとんどゼロだったんじゃないかなと思うんですけど、バイパルスをないっていう場合には、ほぼこの人たちは死んでしまう状況かなと思います。上古和はどの辺なんだろうかと思いながら、少し調べると、10分で行けっただけのはかなり難しいと思ってはいるんですけど、人口の少ないところのところには、なかなか来ないのかって言われると本当にいいのかなって、三隅と弥栄で3つというのもちょっと考えてもいいのかなと思います。

(委員長)

事務局いかがですか。

(事務局)

なかなか新しいご意見で増やす方向のご意見を、初めていただきました。ありがとうございます。できることなら、どこも5分前後で到達できるような出張所配置は理想ですが現状で、今の出張所数で、行くのが限界かなというのが正直なところ。ご意見としては、当然1つの意見として賜っておきます。ただ現実として、現状の位置をどうずらすかっていうところ、もしくはそのままいくかというところを、考えていただきたいというのが正直なところ。です。

(委員)

そうすると、バイスタンダーのことを考えると、時間的に看過できないぐらいの時間になってしまうところは、却下した方がいいのではかなと医者立場では思います。例えば19分とか現場到着までかかる弥栄支所から黒沢までだと、あまり好ましいことではないかなというところで、覚知から準備して出て、もう20分も多分超えてしまうと思いますので、それはあまりもう一方を最低限守らなければいけない時間のところが難しい。10分ちょっとぐらいまでというところが消防署の方のところかなと思います。ちょっと専門用語が入ってしまいましたのでご説明させていただきます。心肺停止になってから7分間、心臓マッサージをされないうままでいるとほぼ助からないと言われていて、その前になるべく心臓マッサージを近くの

人がやることが非常に重要であるってということなんですけど、そういったことが、周りの人ができないっていう状況があった場合には 10 分間ぐらい掛かって、到着した場合には多分亡くなってしまうという時代になるかなという意味での説明になります。

（事務局）

それを補うことをいろいろ浜田でも、まちかど救急ステーションというのを配置したりして、バイスタンダーを住民の方々にやっていただくという方法を考えたりしております。ただ都会や、先進的な場所では、救急車を日中だけ配置替えして、町の途中とか銀行が日中集中する地域に、救急車がいつもいない場所に配置してとかいう考え方をするとところもありますが、どういう効果が出てくるのかはまだ検証に至ってない段階です。ただ、手法としてはそういう方法も東海もしくは人口集中地域ではやっている。日中と夜間で、人口の流動が大きい地域では、やっているところがあるというのも事実です。いろんな方法が確かにあるし、今言われたことも、実際の現実のところでは、それを補うためにまちかど救急ステーションとかを考えておりますが、それで足りているかと言われれば、それで足りていない部分は実際にあると思っております。それも踏まえて、またご意見のほどよろしくお願いいたします。

（委員）

例えば、資料で、上古和が 0 人になっていますが、実際には住んでおられる方がいます。それともう 1 点、弥栄の人口の一番下に黒沢がありますが、人口が 51 人もいることになっていますが、実際にはこの半分になっている。大字黒沢という地域が非常に議論で、上古和に近いところが結構黒沢だろうと思っていますので、多分西部署の方はわかっているとは思いますが、やたら広くて地元の方はわかると思いますが少し気になりました。

（事務局）

委員長すみません。浜田消防署長は事務局ではないのですが、資料を作成されましたので、少し発言権をいただいてもよろしいでしょうか。

（委員長）

よろしくお願いします。

（浜田消防署長）

この資料作成に当たりましては私が中心になって作成したものです。先ほど佐藤先生からのご指摘もありましたとおり、この将来の人口推計の予想につきましては、表の下に書いてありますとおり、コーホート変化率により算出ということになっております。これは平成 27 年と令和 2 年に行われた国勢調査のデータをもとに、どのように将来人口が推移していくかというものをこのシステムによって算出したものです。あくまでも推計データですので、どのよ

うに平成 27 年と令和 2 年の国勢調査の数字がどのように変化していったかということをもとに算出しておりますので、あくまでもすべてが正しい数字とは限りませんし、逆に人口が、当時の変化によっては、増えるというケースも出てくる可能性もあります。ただ、次の国勢調査が令和 7 年に予定となっていると思いますので、これらの関係とか、その辺の人口の変化によって、今度は令和 2 年、令和 7 年の国勢調査により、また大きく変わってくる可能性もありますので、これは将来の人口を推計する手段の 1 つとしておこなったということをご理解いただきたいと思います。このゼロとありますところにつきましても、将来の人口がもうこの時点ではゼロになるよという値が出ておりますので、実際に今おられる人数がどうなっているかっていうのは、全く出てこないものをご理解ください。

(委員長)

ご説明ありがとうございました。他よろしいでしょうか。

(委員)

今後地域の方に意見を聞くのが課題になると思っていますけど、いつ頃建て替えるかちょっとわかってはいないんだけど、建て替えるかどうかもわかってないんだけど、何か意見をくださいというような表現になるかとは思いますが、どこがいいだろうとかいうような意見を聞くようになるかと思うんですけども、おおよそ支所の建て替え時期だとか、参考のため、そういったものがある程度思い描けるような年数というのが知りたいです。実際に西部消防署、それから弥栄出張所を遅くても、いつまでには建て替えといけないんだというような目安があれば教えていただきたいと思います。

(事務局)

平成元年、2 年に完成でした。耐用年数が耐火なので、60 年、平成だと 61 年 62 年としてもまだかなりあります。弥栄は木造なの 40 年なので、42 年のラインになります。弥栄の方が建て替えが近いです。支所はすいません、正確な数字はわかりませんが三隅が先だそうです。西部は地盤の状況がありますので、消防としては、弥栄は結構まだ綺麗なものでいただければなと思いつつも、どちらも同時に同じ時期が来る想定もしておりますが、弥栄が平成 42 年ですから、令和 12 年ごろに耐用年数の区切りが来るというだけで、それは使えないというわけではないということは大前提で考えていただきたいと思います。すいません耐用年数について今ちょっと書類を持ってきますので、もうしばらくお待ちください。

(委員長)

今書類をお持ちいただけるとのことですので、しばらくお待ちください。その間にもし他のご質問等願いたいします。

(委員)

西部消防署の地盤沈下が著しいということなのですが、実際どういった悪影響が出ている現状でしょうか。

(事務局)

建物を想像してください。建物の裏側です。支所の駐車場があります。建物沿いに水道管とかの配水管とかが 50 センチぐらいずれてしまって、地下の物が流れてしまい空洞ができてしまったので改修工事を行いました。結局、改修工事は地盤を補強するのではなくて、その配管をつなぐだけです。それで、埋め戻しても、どんどんどんどん土がなくなっていくんですよ。どうしてかわかりませんが、手前側に交番がありますが、あそこは大丈夫なんです。アパートも近くにありますがあそこも大丈夫です。でも、出張所がある場所だけ土がどんどんなくなっている状況です。そんな状況で、どれぐらいまだ土が残ってるのか正直わかりません。玄関前もこの前アスファルトを足したのですが、あそこも 30 cm ぐらい下がっていました。それをまた足しているばかり、実際に底がどうなってるのかわからないので不安なばかりです。傾かないから大丈夫だろうという想定しているだけで、実際には、怖いなという状況であります。

(委員)

昔は、田んぼだった。

(事務局)

すいません、耐用年数についてですが、一応、三隅が 60 年。弥栄が 40 年。耐用年数、建築年から換算すると、2051 年が三隅、2031 年が弥栄という数値的にはそうになっています。

(委員長)

ありがとうございます。耐用年数からいうと三隅は 2051 年まで、弥栄は 2031 年までというところがリミットで、あくまで耐用年数をそのまま数字でとらえた場合になります。

(事務局)

訂正させてください。三隅も弥栄も現時点の計画では、2031 年が耐用年数と考えてください。今の計画では、西部署の長寿命化をすれば、20 年延ばせますが、長寿命化をやらないうという方向で建て替えをおこないたい。地盤ではやりたくないというのが今の消防の方針です。

(委員長)

ありがとうございます。重要な情報ですので繰り返しますと西部消防署も弥栄出張所も耐用年数から言えば、2031 年までにとなります。

(委員)

現在の建物は手狭である印象もありますよね。

(委員)

現西部署のところにもう 1 回建て替えるという案が出ていますが、その際には地盤沈下は大丈夫なんですか。もし駄目であれば、もうこの案はだめじゃないかなと。

(事務局)

西部署は一応その場所を挙げましたが、案というより、目安と思っていただければいいと思います。

(委員)

基本的にはここにもう作らないのですか。

(事務局)

作るのであれば、地盤補強をする形になるので、費用的にどうかなというところがあります。でも、この案を否定するものではありません。何とかここで建て直してくれという意見も 1 つの意見ととらえます。

(委員)

例えばこの今回いろんなアイデアが出ていますが、この加重平均値だけ見ると、大して変わらないというのが正直なところだなと思って見させていただきましたので、余りに費用がかかるから、少し加重平均が高いけどこっちとかということは全然あり得るっていう解釈でよろしいのでしょうか。

(事務局)

浜田署を前回、前々回と考えていただくときにまず、100m 四方は、最低限必要だということを言いましたが、出張所は見ての通りそんなに広くなくても、ただ、三隅ぐらいの面積が欲しいなというのがあります。前側がしっかりあって作業ができる、もしくは訓練ができるというところを考えると、縦の長さ、弥栄出張所も長いですが、広さはやはり欲しいなというのが理

想です。浜田署については、やっぱり 100m×100m の広さが欲しい。1 万㎡ですというのがありましたけど、出張所はそういうそれほどの広さは必要ないと考えております。

(委員)

浜田署の場所はどこで、やることになっていますか。

(事務局)

場所は決まっていません。バイパスの中央付近というのが理想的という意見もありました。どれという形は決まっておりませんが、方向性としては、中央付近がという声が多かったと理解しております。

(委員)

その辺でというところ辺ですか。

(事務局)

こちら辺の中央というのは、竹迫付近になります。竹迫と下府側の出入り口付近とこの場所を比較検討しました。

(委員長)

いろいろなご意見、いただきましたけれども、そろそろ時間としては、終了時間近づいておりますけれども、もしどうしてもというご意見ございましたら、あとひと方ぐらいは、ご意見いただけるかなと思いますがいかがでしょうか。

今回のご議論いただいたお話をですね、それぞれの地域にお持ち帰りいただいて、加重平均、現場到着時間、あと地盤のお話、ハザードマップ、様々論点があろうかと思えますけれども、ご意見を集約していただければというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。では、次回の検討委員会の開催時期についてですけれども、事務局次回の開催いつ頃を考えていますか。

(事務局)

次回の開催は 11 月の中旬以降を考えております。

(委員長)

他にはもう意見はないかなと思いますので、事務局にお返したいと思います。

(事務局)

委員長ありがとうございました。以上をもちまして、第 5 回浜田市消防本部体制検討委員会を終了します。皆様、お疲れ様でした。

お気をつけてお帰りください。